

これから1月分の月例報告書をはじめます。この時期は、常に気温が氷点下を下回る日々が続いていますが、雪は降ることは珍しいことです。日が暮れた時や朝方がとても寒く、体感的に石川県にいるときよりも寒く感じます。隣の部屋のルームメイトが風邪を引いて、約1週間そっとしておかなければならない時がありました。外は凍えるような寒さですが、室内はコートを脱いでも大丈夫なほど暖かいです。体調管理をさらに考えていかないといけないと感じました。

1. 新年

生まれて初めてアメリカで年を越しました。いろいろ刺激を受けた2014年であり、さらなる躍進を目指す2015年にしたいと誓いました。私は冬期休暇中に旅行をして、その時に年を越しました。この冬期休暇には、両親の家に戻った学生や旅行をした学生、ローズハルマン工科大学内で年を越した学生もいました。ほとんどの学生が寮の部屋を空けて寮内には数名しかいない状態になります。冬期休暇に限らずほとんどの休暇がこのような状況になります。

2. ローズハルマン工科大学の就職

ローズハルマン工科大学で生活している中で、よく聞くことがあります。それは、ローズハルマン工科大学の学生は就職後の初任給がアメリカ全土の大学の中で2番目であるということです。留学する前はそのようなことは知らなかったが、留学してローズハルマン工科大学のカリキュラムを経験して、この事実に納得できる要因がありました。

1つめは、カリキュラムのなかに知識をつけるだけでなく、それを実験という形で深く理解できるようにすることです。その中の実験では、アプリケーション、計測等実験で必要な器具を使用することで、実践的な能力を身に付けることができます。また、ローズハルマン工科大学の大学院の方の話で、その方が持っている技術や知識の基礎は、ロールハルマン工科大学の講義が中心とおっしゃっていました。私もその実験を体験して、金沢工業大学のカリキュラムよりもさらに実践的だなと感じました。

2つめは、大学内でキャリアフェアが開催されているということです。図1はキャリアフェアの様子です。学期ごとに1回のキャリアフェアが開催され、冬学期には100以上の会社がローズハルマン工科大学に集まりました。ローズハルマン工科大学の学生への期待度が分かります。また、インディアナ州以外の州から来た会社もあり、規模が大きいことにびっくりしました。

アメリカではインターンシップ制度があり、実際に会社で実務訓練を経験でき、就職後に即戦力につながります。多くの会社が学生に期待を寄せているということは、大学のカリキュラムが各会社や世の中に認められているのだとわかりました。



図1 キャリアフェアの様子

(URL: <http://www.rose-hulman.edu/offices-and-services/career-services.aspx>)

3. 授業に関して

1月を終えて、冬学期の半分が終了しました。今学期は新しいことを身に付けるため、C言語を使用したプログラミングとデジタル処理を学ぶことができる科目を選択しました。また、数学の科目を一つ取りました。すべてがまだ知らないことだらけで、理解することや実際に使うことに時間がかかりますが、新しいものを身につけていると実感できているので、切羽詰まっている部分はあるが、楽しいです。

4. おわりに

留学生活も残り1か月が切りました。帰国報告会のため、冬学期の途中で帰国しなければならないのが、残念ですが、やり残しがないように努力していきます。以上で、月例報告書を終了します。